

「Jパワー「エコ×エネ・カフェ」が5年目に突入！ 東大・松本真由美さんと大学生らが“再エネ論議”

大学生や社会人がエコロジーとエネルギーについて気軽に話し合う「Jパワー（電源開発）主催の「エコ×エネ・カフェ」。若い人たちがエコ&エネルギーについて真面目に考えるきっかけになればと、2009年10月にスタートした。5年目に突入した人気イベントの会場をのぞいてみると、大学生らがゲストとともに“再生可能エネルギー論議”に花を咲かせていた。

（本誌編集部）

2月12日夕、Jパワー本社（東京・銀座）近くにある「カフェ・ジュリエ」。私服姿の大学生やスーツ姿の就活学生、勤め帰りの社会人ら30人弱が集まった。

「エコとエネのバランスのとれた社会実現について、学生や社会人の方々が真面目に話し合い、何かに“気づく場”になればと始めました」とはJパワー広報室の小林庸一課長。

この日は、東京大学教養学部客員准教授で国際環境経済研究所理事の松本真由美さんがゲストとして招かれ、「再生可能エネルギーで日本が変わる!？」をテーマに最近のエネルギー政策の動向や、再エネの種類・導入事例・課題を、スライドを使って分かりやすく解説した。松本さんは再エネの本格普及に向けた課題について「発電コストが高いという問題を解決することが不可欠」と語った。

その後、トークをもとに、「あなたがグッときた再エネは？」など2つのテーマについて話し合った。期待する再エネについては、太陽光、風力、バイオマス、地熱、潮力・波力がほぼ拮抗する結果となった。

大学2年の男子学生は松本さんに対し、「再エネだけでなく、火力や原子力も重要ではないかと思う。松本さんはどう思いますか」と質問。松本さんは「火力は基幹電源として重要。原子力発電所が稼働停止する中、日本を支えているのは火力で、化石燃料を大事に高効率に使うことが大切です。また、原発が稼働しない状況が続くと（電気料金が高くなってしまっ）て企業は海外に出ていき、失業問題が頭をもち上げてきます」と答えた。

東京理科大学3年の男子学生は「東京にあったエネルギーは？」と質問。松本さんは「再エネとコージェネレーション（熱電併給）を組み合わせるのがいい



「エコ×エネ・カフェ」の話し合い風景。松本真由美さん（右から2人目）も参加した＝2月12日、東京・銀座

いのではないのでしょうか。田町駅東口北地区（東京都港区）では、再エネとコージェネレーションを組み合わせるICT（情報技術）で最適化するプロジェクトが進行しています」と指摘した。

イベントは3時間ほどで終了。初めてエコ×エネ・カフェに参加したという明治大学3年の女子学生は「再エネは簡単には導入できないと思っていましたが、話をうかがって、もっと多く導入できそうな印象を持ちました」と語った。

イベント終了後、松本さんに感想を聞くと、「学生の考え方がとても現実的だったのが印象的でした。ただ単に再エネを導入すればいいと考えるのではなく、火力や原子力など電源全体の中で再エネをどう位置付けるかをしっかり考えようとしていました」とのことだった。

Jパワーではエコ×エネ・カフェ以外にも、大学生を対象に福島・奥只見の大自然と水力発電を実体験するツアーや、小学生（4～6年生）親子を対象にした「エコ×エネ体験ツアー」を実施している。